

表1 強震動評価手法の検証において用いた特性化震源モデル(2005年福岡県西方沖の地震)

断層パラメータ	波形インバージョン結果に基づく特性化震源モデル			「レシピ」による特性化震源モデル	備考	
	ケース1(Kobayashi et al.)	ケース2(Asano et al.)	ケース3(Sekiguchi et al.)	(初期設定)	ケース4	
巨視的震源特性	震源位置[破壊開始点] (° N / ° E) 33.7402/130.1722	33.7402/130.1722	33.7402/130.1722	33.7402/130.1722	33.7402/130.1722	1) より(参考: 気象庁 33.738/130.175)
	走向 ϕ (°) N 126 E	N 126 E	N 126 E		N126E	1) より
	傾斜 δ (°) 87	87	87		87	1) より
	長さ L (km) 28	28	28		28	波形インバージョン結果より設定
	幅 W (km) 16	16	16		16	$W=W_s/\sin \delta$
	面積 S (km ²) 448	448	448		448	$S=L \cdot W$
	地震発生層[上端～下端] (km) 3~19	3~19	3~19		3~19	(地震発生層の厚さ $W_s=16$ km)
	震源深さ[破壊開始点] (km) 11	14	12		11	波形インバージョン結果より設定(参考: 1)では 9.84km, 気象庁 9km)
	地震モーメント M_0 (Nm) 1.12E+19	1.12E+19	1.12E+19	1.12E+19	1.12E+19	(3)式 $S=4.24 \cdot 10^{11} \cdot M_0^{1/2}$ の関係式により算定
	モーメントマグニチュード M_w 6.63	6.63	6.63	6.63	6.63	$\log(M_0)=1.5M_w+9.1$ の定義式より
微視的震源特性	静的応力降下量 $\Delta \sigma$ (MPa) 2.87	2.87	2.87	2.87	2.87	(16-2)式 $\Delta \sigma=7/16 \cdot M_0/R^2$, $S=\pi R^2$
	剛性率 μ (N/m ²) 3.12E+10	3.12E+10	3.12E+10	3.12E+10	3.12E+10	$\mu=\rho V_s^2$, $\rho=2.7$, $V_s=3.4$ km/s
	平均すべり量 D (m) 0.80	0.80	0.80	0.80	0.80	$D=M_0/\mu \cdot S$
	短周期レベル 1.18E+19	1.18E+19	1.18E+19	1.18E+19	1.18E+19	(6)式 $A=2.46 \cdot 10^{17} \cdot M_0^{1/3}$
	総面積 S_a (km ²) 64	64	48	79	80	$S=\pi \cdot r^2$ (但し、ケース4では2km単位の矩形として再設定)
	割合 (%) 14.3	14.3	10.7	17.6	17.9	S_a/S
全アスペリティ	等価半径 r (km) 4.51	4.51	3.91	5.02	5.05	(7)式 $r=(7\pi/4) \cdot (M_0/(A \cdot R)) \cdot \beta^2$, $\beta=3.4$ (ケース4では $S=\pi \cdot r^2$ より換算)
	地震モーメント M_{0a} (Nm) 3.19E+18	3.19E+18	2.39E+18	3.94E+18	3.99E+18	$M_{0a}=\mu \cdot D_a \cdot S_a$
	静的応力降下量 $\Delta \sigma_a$ (MPa) 20.08	20.08	26.77	16.26	16.06	(15-2)式 $\Delta \sigma_a=7/16 \cdot M_0/(r^2 \cdot R)$
	平均すべり量 D_a (m) 1.60	1.60	1.60	1.60	1.60	(10)式 $D_a=\xi \cdot D, \xi=2$
	面積 S_{a1} (km ²) 64	48	48	79	80	$S_{a1}:S_{a2}=16:6$ を基に設定(ケース2), その他は $S_{a1}=S_a$
第1アスペリティ	等価半径 r_1 (km) 4.51	3.91	3.91	5.02	5.05	$r_1=(S_{a1}/\pi)^{1/2}$
	平均すべり量 D_{a1} (m) 1.60	1.79	1.60	1.60	1.60	(14)式 $D_{a1}=(\gamma_1 \cdot \sum \gamma_i^3) \cdot D_a, \gamma_i=r_i/r$
	地震モーメント M_{0a1} (Nm) 3.19E+18	2.67E+18	2.39E+18	3.94E+18	3.99E+18	$M_{0a1}=\mu \cdot D_{a1} \cdot S_{a1}$
	実効応力 σ_{a1} (MPa) 20.08	20.08	26.77	16.26	16.06	$\sigma_{a1}=\Delta \sigma_a$
第2アスペリティ	ライズタイム t_r 1.3	1.4	1.4	2.0	1.6	$tr=W_{a1}/(2V_r)$ (アスペリティ断層幅 W_{a1} は右図参照)
	面積 S_{a2} (km ²) -	16	-	-	-	$S_{a1}:S_{a2}=16:6$ を基に設定(ケース2), その他は $S_{a2}=0$
	等価半径 r_2 (km) -	2.26	-	-	-	$r_2=(S_{a2}/\pi)^{1/2}$
	平均すべり量 D_{a2} (m) -	1.03	-	-	-	(14)式 $D_{a2}=(\gamma_2 \cdot \sum \gamma_i^3) \cdot D_a, \gamma_i=r_i/r$
背景領域	地震モーメント M_{0b} 7.97E+18	7.97E+18	8.77E+18	7.22E+18	7.18E+18	(12)式 $M_{0b}=M_0-M_{0a}$
	面積 S_b (km ²) 384	384	400	369	368	$S_b=S-S_a$
	平均すべり量 D_b (m) 0.67	0.67	0.70	0.63	0.62	(13)式 $D_b=M_{0b}/(\mu \cdot S_b)$
	実効応力 σ_b (MPa) 4.18	3.24	4.42	3.55	3.14	(18)式 $\sigma_b=(D_b/W_b) \cdot (\pi^{1/2}/D_a \cdot r \cdot \sum \gamma_i^3) \cdot \sigma_a$ (ケース2)
	ライズタイム t_r 2.7	3.8	3.8	3.3	3.3	(17)式 $\sigma_b=(D_b/W_b)/(D_a/W_a) \cdot \sigma_a$ (その他のケース)
その他の震源特性	f_{max} (Hz) 6	6	6	6	6	$t_r=W/(2V_r)$
	破壊開始点 破壊伝播様式 破壊伝播速度 V_r (km/s)	震源 第1フロントは同心円	震源 第1フロントは同心円	震源 第1フロントは同心円	震源 同心円	同心円
						(23)式 $V_r=0.72V_s$

■ 波形インバージョン結果に基づく設定

■ レシピその他の関係式より設定

■ モデル化において再設定

青字は波形インバージョン結果に基づき設定した値を示す

※ 備考欄は ■ 以外のパラメータ設定根拠を示す

※※ 1)については、<http://www.k-net.bosai.go.jp/k-net/topics/fukuoka050320/> による

